

東京市本郷区域における女子歯科医学校の設立

永藤 欣久

東洋学園大学 東洋学園史料室

本郷区と小石川区が合併して成立した東京都文京区は医学教育機関、医療関連産業が集積する地である。1894(明治27)年に女性初の公許歯科医師となる高橋孝は吉岡彌生が入学する前年の1888(同21)年に済生学舎で学び、同校は本郷区元町1丁目であり当時は湯島4丁目にあった。女性歯科医師の登録数は1907(同40)年10名、1917(大正6)年3月でも30名であるが、翌1918年7月には40名、1919年11月で50名と次第に数を増し、女子の歯科教育機関による養成が始まったことを示している。

歯科教育機関は神田川対岸の現千代田区域で発達し、初の女子校である東京女子歯科医学講習所も1909(明治42)年に神田区猿楽町で設立された。同校は歯科医学校、歯科医学専門学校と変遷しつつ日本女子と改称、その流れを汲んだ神奈川歯科大学が現存する。

文京区域の歯科教育機関は現在、湯島の東京医科歯科大学のみであるが、過去には別の私立女子校が存在した。その明華女子歯科医学講習所は東京女子歯科医学校から分離して1917年9月12日に本郷区田町29番地、現在の文京区西方1丁目15番地付近で開校、翌年に歯科医学校として認可され、1919年3月に元町2丁目63番地(現本郷1丁目26番地3号)の私立習性尋常高等小学校跡に転じた。1921年専門学校設立認可、1926(大正15)年の文部大臣指定認可時に東洋女子と改称、1950(昭和25)年に閉校した。

明華女歯の設立者は香山明(1883~1969)である。日本医科大学大学院医学研究科解剖学・神経生物学分野ウェブサイト「教室の沿革(教室の設立、歴史、変遷など)」は、「明治45年9月『日本医学専門学校』として認可発足し、解剖学教授として池田孝男、工藤喬三、原正、二村領次郎、小池敬事、上田常吉、森於兎、藤井静雄の諸教授と香山明助教授が名を連ねている。(略)香山明助教授(日大医学部の前身へ、明華女子歯科医専創立者)は就任期間は短かったが、教室に刺激を与えた」と記している。

香山明は東京都公文書館が所蔵する1918年2月1日付「私立明華女子歯科医学校設立願」記載の履歴書によれば1883(明治16)年生まれ、1903(同36)年から1905年まで関西医学院で学び、同年から大阪府立高等医学校助手として解剖学教室に勤務、1907年より京都帝国大学医科大学雇員となり、両勤務校の教員に私淑して組織学、系統解剖学、ドイツ語を学び、「大正元年九月ヨリ同三年六月迄デ私立日本医学専門学校助教授拜命解剖学担任」、1914年9月から神田三崎町の東京歯科医学専門学校(現東京歯科大学)に転じた。

関西以西で育った香山は日本医専、東京歯科医専に勤務して本郷区に学校を置く利を悟ったのであろう。明華(東洋)女歯が終始本郷にあったのに対し、東京(日本)女歯は1913年に神田区北神保町、1923年に荏原郡品川町水神下(大井町)、1935年に大森区北千束町(大岡山)と移転を重ねた。演者が聴き取りした新井たつる(1909~2011)のケースでは両女子校が指定問題で揺れていた1926年にいったん大井町の東京女歯へ入学したものの、基礎医学の教員に東京帝国大学教授がいることを理由に本郷の明華女歯を勧める陸軍将校の叔父の意見に従い、一週間で後者に転校している。

教員、学生確保の両面で立地条件は重要であり、本郷の優位は数字が示している。同窓会名簿によれば1928年の卒業生数は東京女歯55名に対し東洋女歯81名、前者の大岡山移転後1937年は9名に対し後者86名となり、この優位は戦時体制強化による学生急増期まで変わらなかった。